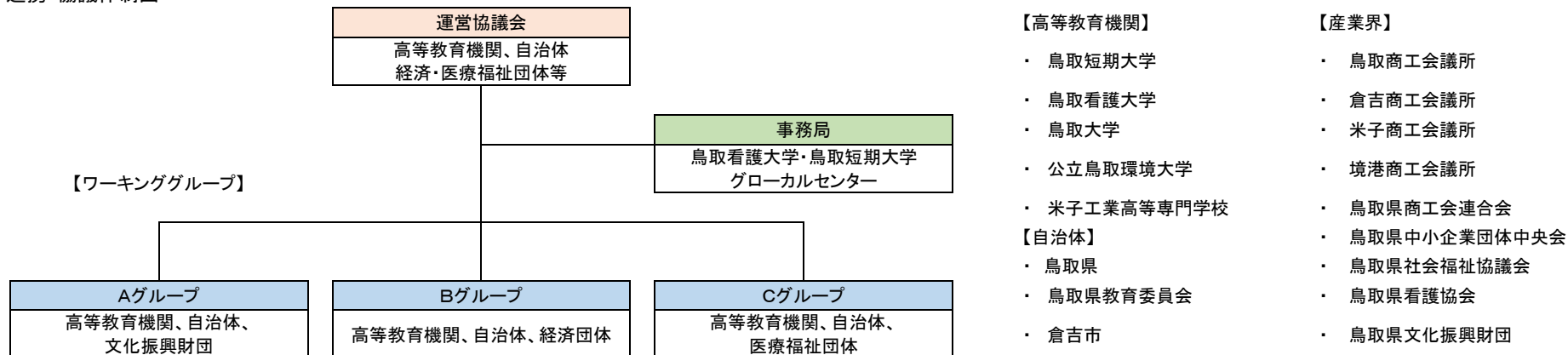


## 2 様式 1) プラットフォームの連携体制・中長期計画の概要図 (1 ページ以内) ※全てのプラットフォームが記入

○現状・課題、ビジョン・目標 (数値目標含む)、連携体制図 (協議体制含む)、取組の抜粋等により、プラットフォームの全体像がわかるように作成してください。

### ◆連携・協議体制図



### ◆現状

・鳥取県はわが国で人口最少県(539,190人 2023年4月1日現在推計人口)。・高等教育機関は、国立の鳥取大学、公立の公立鳥取環境大学、国立の米子工業高等専門学校と藤田学院が運営する私立の鳥取看護大学と鳥取短期大学2校、計5校(以下5大学)。・少子高齢化進行。若者の県外流出。その中でも、米子工業高等専門学校および私立2大学は入学者に占める鳥取県出身者の割合は8割以上だが、鳥取大学、公立鳥取環境大学の入学者に占める本県出身者の割合は2割程度である。・若者、特に大卒者の就業する受け皿となる企業数が必ずしも多くはない。また、学生に県内企業が十分に知られていない。若者のUターン難しい。→人口減少加速化。

### ◆課題(現状を踏まえ)

(1) プラットフォーム構成団体の連携強化による研究教育力の向上 (2) 県立美術館のサポート・活用 (3) 若者定着による人手不足の解消 (4) 地域交通の維持・利用促進 (5) 地域リスクマネジメント体制の強化 (6) 地域福祉活動への学生の参加促進

### ◆ビジョン・目標

・高等教育機関、自治体、および産業界が連携・協力して、鳥取県の高等教育および地域の更なる活性化の推進に寄与する。

### ◆数値目標

(1) 共同研究の取組み数【目標】令和5年度～令和9年度10本 (2) 対話型鑑賞プログラム実施回数【目標】毎年2回以上 (3) 県内高等教育機関の県内就職率(県内就職者数/就職者数)【目標】令和9年度38%、大学等別目標 鳥大 25%、環境大 25%、米子高専 22%、看護大 80%、鳥短 80% (4) JR通学利用率(高等教育機関別に目標値設定)【目標】令和9年度5%UP(令和4年度比) (5) 防災士養成研修参加人数【目標】令和5年度～令和9年度累計150人 (6) あいサポーター研修への参加学生数【目標】令和5年度～令和9年度累計500人

### ◆取組内容

①高等教育機関の連携による学びの提供(活動指標：公開講座毎年1回開催) ②社会人の学びやすい仕組みの導入と推進(活動指標：検討会毎年1回開催(令和6年度まで)) ③共同FD・SD研修会の実施(活動指標：毎年1回開催) ④美術ファンリテーターの養成(活動指標：対話型鑑賞プログラム毎年2回以上開催) ⑤美術館フィールドの活用支援(活動指標：美術館関係者による講座毎年1回開催) ⑥美術館のサポート(開館後も見据えた)(活動指標：構成大学等教員への聞き取り毎年複数人(令和6年度まで)) ⑦産業界との連携による産業人材の育成(活動指標：大学等教員による社会人のキャリア形成等研修毎年1回) ⑧学びと関連した移住・定住の促進(活動指標：県外説明会毎年1回参加) ⑨ラーニングワーケーション環境の整備(活動指標：検討会毎年1回開催) ⑩若者の県内定着の推進(活動指標：企業説明会等毎年2回参加) ⑪JRの利用促進と駅(周辺)の魅力づくりへの参画(活動指標：県補助金活用等による活動の実施毎年1活動) ⑫交通弱者に対応した新たな地域交通インフラの検討(活動指標：学生のモニター等参加毎年募集の都度) ⑬防災士養成の促進(活動指標：養成研修毎年30人参加) ⑭若者による地域防災活動の推進(活動指標：防災研修毎年1回開催) ⑮子ども食堂等の情報発信と学習支援(活動指標：子ども食堂への学生の参加の進め方検討毎年1回実施) ⑯アドボカイト・子どもサポーターの養成(活動指標：サポーター養成研修への参加毎年10人) ⑰地域福祉理解と活動の推進(活動指標：あいサポーター研修への参加毎年100人)